

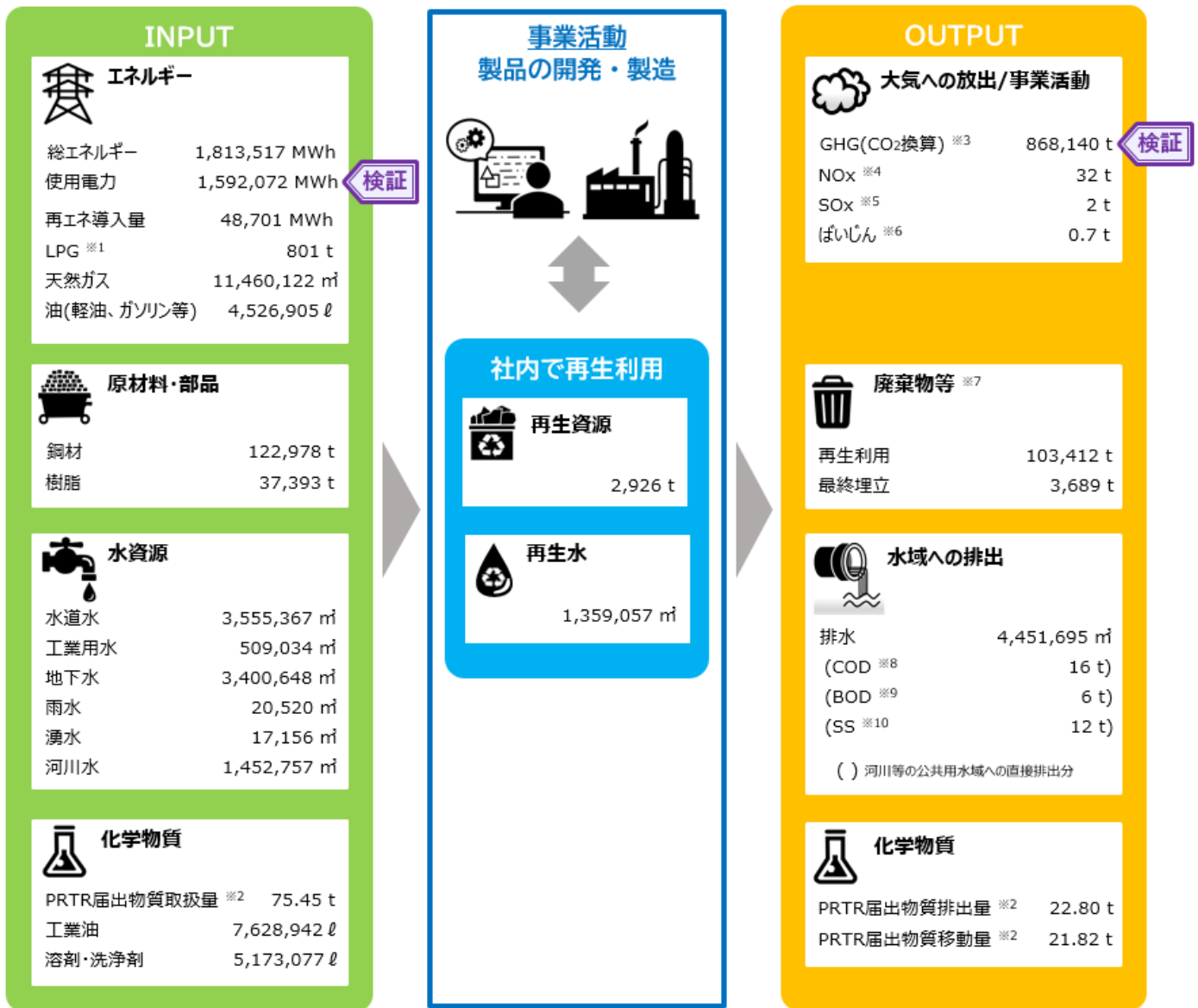
2024年3月期 環境データ

ミネベアミツミグループの環境負荷

当社グループは、世界 28 か国に 130 生産・研究開発拠点と 101 営業拠点を有し、主力のベアリングをはじめとする機械加工品、電子機器、半導体製品など、多様な製品を生産、販売しています。

2024年3月期の当社グループの環境負荷は以下のとおりです。

インプット・アウトプット (2024年3月期実績)



集計範囲： 生産拠点、連結決算の対象

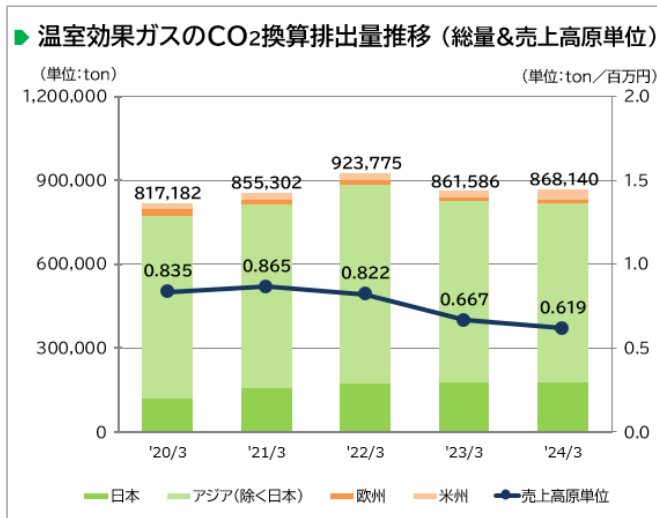
検証： 第三者検証受審対象

※1 LPG:液化石油ガス
 ※2 PRTR 届出物質:PRTR 法(特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律/日本国内法)により届出た化学物質
 ※3 GHG(CO₂換算):地球温暖化係数を使用して CO₂(二酸化炭素)量に換算した温室効果ガス。CO₂に換算した温室効果ガスは、CH₄、HFC、PFC、SF₆、NF₃、N₂O の 6 種類
 ※4 NOx:窒素酸化物。光化学スモッグや酸性雨の原因物質
 ※5 SOx:硫酸酸化物。ぜん息や酸性雨の原因物質
 ※6 ばいじん:燃焼、加熱および化学反応などにより発生する排出ガス中に含まれる粒子状物質。粒径が大きいものは視界不良、粒径が小さいものは呼吸器など健康への影響要因
 ※7 廃棄物等:有価物および廃棄物
 ※8 COD:化学的酸素要求量。海域と湖沼の有機物の環境基準などに用いられる指標
 ※9 BOD:生物化学的酸素要求量。河川の有機物の環境基準などに用いられる指標
 ※10 SS:浮遊物質。水中に含まれる不溶性物質の環境基準などに用いられる水の濁り具合に関連する指標

ミネバアミツミグループの温室効果ガス排出量

2024年3月期の当社グループ全体の温室効果ガスのCO₂換算排出量は868,140トンで、前期と比較して約0.8%増加しました。電力のCO₂排出係数の低下に加え、生産効率の向上や再生可能エネルギーの導入などにより、売上高8.5%増加に対して微増となりました。

売上高原単位で温室効果ガス排出量をとらえた場合は、0.619トン/百万円となり、売上高の増加に対してCO₂換算排出量が減少したことから原単位は改善され、前期と比較して7.2%減少しました。



※ 2020年3月期まで遡って、Scope 2の算出方法をロケーション基準からマーケット基準へ変更

▶ サプライチェーン排出量 (Scope1,2,3)

(単位: 千t-CO₂)

	'24/3	検証
Scope1	99	●
Scope2 *	769	●
Scope3	34,360	●
カテゴリ1	購入した製品・サービス	4,127 ●
カテゴリ2	資本財	278 ●
カテゴリ3	Scope1,2に含まれない燃料、およびエネルギー関連活動	113 ●
カテゴリ4	輸送、配送(上流)	237 ●
カテゴリ5	事業から出る廃棄物	15 ●
カテゴリ6	出張	14 ●
カテゴリ7	雇用者の通勤	50 ●
カテゴリ8	リース資産(上流)	—
カテゴリ9	輸送、配送(下流)	0.2 ●
カテゴリ10	販売した製品の加工	579 ●
カテゴリ11	販売した製品の使用	28,938 ●
カテゴリ12	販売した製品の廃棄	7.1 ●
カテゴリ13	リース資産(下流)	—
カテゴリ14	フランチャイズ	—
カテゴリ15	投資	2.8 ●

*: マーケット基準

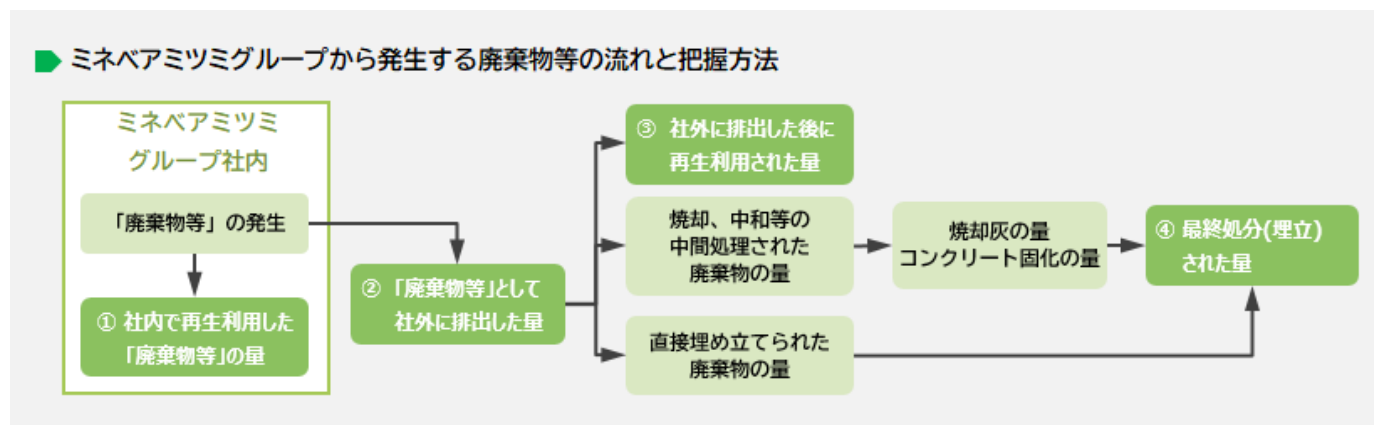
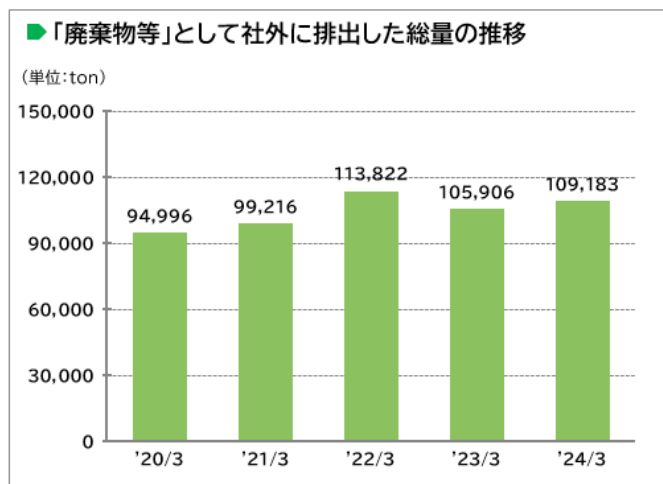
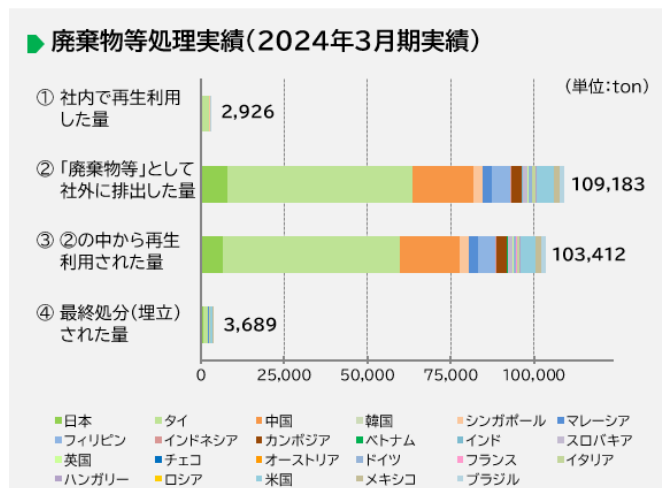
●: 第三者検証受審対象

Scope3 各カテゴリの算出方法

購入価格に原単位を乗じて算出
購入した資本財の金額に原単位を乗じて算出
使用したエネルギー(燃料・電力)に種類別原単位を乗じて算出
輸送重量と距離の実績データ・燃料使用量に、原単位を乗じて算出
廃棄物を種類別に分類し、排出量に原単位を乗じて算出
従業員数に原単位を乗じて算出
勤務形態別・都市区分別の従業員の勤務日数に対し原単位を乗じて算出
対象外(当社では、本カテゴリに該当する排出は無い)
当社完成品の輸送重量と距離の実績データ・燃料使用量に原単位を乗じて算出
当社製品の製造コストに当社のGHG排出量(Scope1,2)原単位を乗じて算出
当社製品の販売数の生涯使用電力量に原単位を乗じて算出
当社製品の売上高に原単位を乗じて算出
対象外(当社では、本カテゴリに該当する排出は無い)
対象外(当社では、本カテゴリに該当する排出は無い)
株式を保有している会社のScope1,2排出量に当社の株式保有比率を乗じて算出

ミネバアミツミグループの廃棄物等排出量

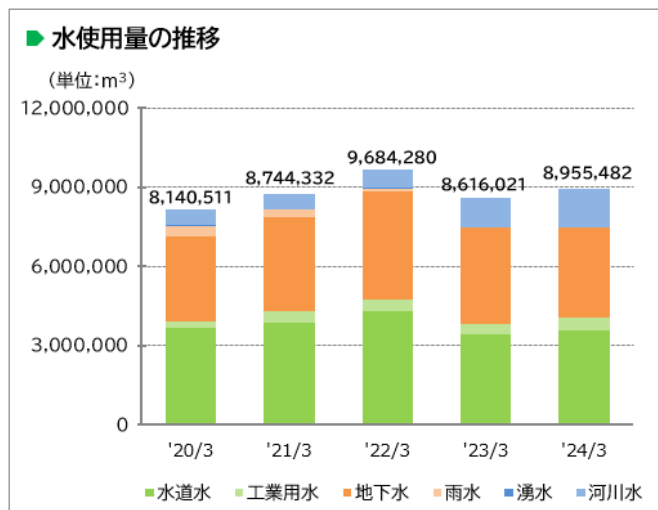
2024年3月期に当社グループ全体で使用された主な原材料は、鋼材：約122,978トン、樹脂：約37,393トンで、合計量は前期と比較し6.3%増加しました。「廃棄物等」として社外に排出した量は、109,183トンとなり、前期と比較して3.0%増加しました。また、最終処分(埋立)された量が前期から1,000トン以上改善され、(2023年3月期：5,135ton)主な要因は、それまでタイの工場で直接埋立されていた汚泥を焼却処分に変更することができたためです。



ミネバアミツミグループの水使用量

2024年3月期の当社グループにおける水使用量は8,955,482m³となり、前期と比較して3.9%増加となりました。

タイや中国の量産工場において、工場内で発生した排水を可能な限りサイクルし、工場外に排出しない「工場排水ゼロシステム」を運用しています。



PRTR 物質の管理（日本）

日本国内の各事業所は PRTR 法（化学物質排出把握管理促進法）に基づき、PRTR 対象物質の取扱量、移動量を管理しています。

■ 2024 年 3 月期の報告実績

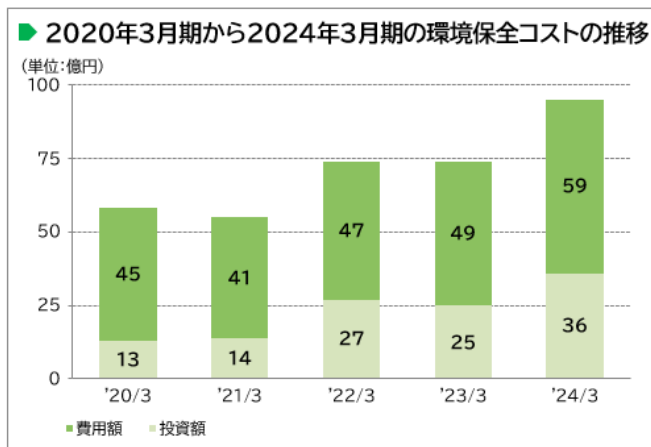
(単位 : ton)

管理 番号	CAS No.	物質名	取扱量	排出量			移動量		消費量	除去 処理量
				大気	水域	埋立て	廃棄物	下水道		
20	141-43-5	2-アミノエタノール	2.90	0	0	0	2.90	0	0	0
53	100-41-4	エチルベンゼン	3.91	3.91	0	0	0	0	0	0
80	1330-20-7	キシレン	4.96	3.77	0	0	1.19	0	0	0
213	127-19-5	N,N-ジメチルアセトアミド	2.94	0.12	0	0	2.82	0	0	0
300	108-88-3	トルエン	9.42	9.42	0	0	0	0	0	0
343	120-80-9	カテコール	1.61	0	0	0	1.61	0	0	0
349	108-95-2	フェノール	1.35	0.05	0	0	1.30	0	0	0
374	-	フッ化水素及びその水溶性塩	38.69	0.25	0.49	0	5.80	1.32	0	30.83
438	1321-94-4	メチルナフタレン	3.23	0.06	0	0	3.17	0	0	0
691	25551-13-7	トリメチルベンゼン	1.71	1.71	0	0	0	0	0	0
737	108-10-1	メチルイソブチルケトン	2.95	2.95	0	0	0	0	0	0
746	872-50-4	N-メチル-2-ピロリドン	1.78	0.07	0	0	1.71	0	0	0
合計			75.45	22.80			21.82		0	30.83

ミネバアミツミグループの環境会計

当社グループは、環境保全対策へのコストを認識するため、環境省が発行する「環境会計ガイドライン 2005年版」を参考に、環境会計の集計を行っています。

当社グループの2024年3月期の環境保全コストの総額は95億円で、前年度と比較して増加となりました。



■ 2024年3月期の環境保全コスト集計表

(単位:百万円)

環境保全コスト			対象範囲合計				
分類	主な取り組み内容		投資額合計	費用額合計			
1	生産・サービス活動により事業エリア内に生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト (事業内エリアコスト)		3,558	5,158			
	内訳	(1) 公害防止コスト			水質汚濁防止、大気汚染防止など公害防止のための設備の設置、設備償却及び運転・維持管理費用など	191	1,409
		(2) 地球環境保全コスト			オゾン層破壊物質を使用しない洗浄装置の設置、高効率タイプの冷凍機や変圧器や空気圧縮機の設置、LED照明への切替、減価償却及び運転・維持管理費用など	2,981	2,780
		(3) 資源循環コスト			廃棄物処理及びリサイクルのための設備及び費用など	386	969
2	生産・サービス活動に伴って上流または下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト (上下流コスト)		2	153			
3	管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)		23	602			
4	研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト)		0	0			
5	社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)		0	13			
6	環境損傷に対するコスト		1	6			
	(環境損傷コスト)						
合計			3,584	5,932			

円換算レート:

1USD=¥143.31 1EUR=¥155.18 1THB=¥4.08 1CNY=¥20.03

1SGD=¥106.54 1GBP=¥179.44 1MYR=¥30.97 1PHP=¥2.59